

春日大社元宮司 形成外科医師 葉室頼昭氏が伝えていること

## 花粉症とかアレルギーが起こる本当の原因

ースギ花粉が多く舞い上がるからなどは真っ赤な嘘ー

昔の子供というのは、青っぱなを出していましたね。袖でそれを拭いていたから、袖がゴワゴワでしたね。この頃は青っぱなを出す子供はほとんど見られなくなったでしょう。青っぱなというのはどういうことかいうと、風邪などのばい菌が鼻の粘膜につくわけですね。昔の子供は抵抗力があるから、風邪のばい菌を免疫細胞が殺すでしょう。そうすると、その死骸を外に出さなければいけない。そのために青っぱなを出して外へ押し出しているわけです。そして、鼻についた風邪のばい菌を殺すために出てきた抗体が、今度はアレルギーを抑える作用を持っていたんです。過剰反応を抑える。だから、昔は花粉症とかアトピーは起こらなかった。

ところが、この頃は薬でばい菌を殺してしまうから、人間の身体が抗体を作る必要がなくなってしまう。つまり抵抗力がないでしょう。この抗体がアレルギーを抑えていたのに、抗体を作らないから、今度はアレルギーが出てきてしまった。これが、花粉症とかアトピーが起こる大きな原因なのです。

## アレルギーが起こるカラクリとは

### 血液は骨髄から造られていない状況証拠

自然医学 森下敬一博士

栄養学者は常識化している消化理論の中で、蛋白質はアミノ酸に分解されて初めて吸収されるというのが本当はそうでない。

実際はアミノ酸に分解されないでそのまま血液に入り込むのである。

10年ほど前（昭和41年頃の話）血液センタで皆さんから血液をいただき、いろいろと検査したことがある。意外なことに気がついた。血液を1mmぐらいの試験管に入れ、遠心沈殿機にかけて調べると、血球の部分と血漿の部分に分かれる。もちろん、下のほうには重い赤血球がくる。最初、赤血球と血漿の二層だけかと思っていたところ、そうではなくて、しばしばその血漿の上に、もう一つの層ができる。なんだろうかと非常に興味を持って調べたところ、最初のうちはわからなかったが、やがてそれは、牛乳の蛋白と卵の白身であることがわかった。こんなところに蛋白や卵白が出てくるとは、どうしても合点がいかない。そこで、何回も調べ直してみたが、やはり、牛乳の蛋白と卵の白身なのである。そこで、その血液の主に来ていただいて、いろいろ訪ねてみたところ、血液を200CCも取られては、採血の最中に倒れてしまうかもしれないと思って、予防のために「生卵を5つも飲んできた」という。この人一人だけかと思っていたら、そうではなく、何百人もの人がみんなそうしたというのである。

生卵を朝早く飲んで来て検査の時に生卵のアレルギー反応が出たという事は、まずは、こんなにも早く骨髄を廻って血液が造られない事は容易に想像が付く。（骨髄造血の嘘）

さらに、何が分かるかという、われわれ自信の体蛋白とは違う動物の蛋白、異種の蛋白が血液に入るのだから、これは間違いなくアレルギー反応を起こすということである。厚生省の最近の調査（2000年以降）では国民の3人に1人は（今はもっと増えている）何らかのアレルギー体質を持っているというから、この裏付けに当てはまる。決して、大気汚染等が原因説とは考え直すべきである。

（昭和50年頃、森下学説の実話）